

ふかがわし
深川市都市再生整備計画

ふかがわえきしゅうへんちく
深川駅周辺地区

第1回変更

ほっかいどう ふかがわし
北海道 深川市

令和6年12月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	□
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	北海道	市町村名	ふかがわし 深川市	地区名	ふかがけあきしほうへんちく 深川駅周辺地区	面積	47.8	ha
計画期間	令和6年度	～	令和10年度	交付期間	令和6年度	～	令和10年度	

目標
大目標：みんなで創る魅力とにぎわいのあるまちづくり
目標1：生涯学習活動およびコミュニティ拠点の整備による市街地の交流促進と活性化
目標2：交通結節点の整備による公共交通の利便性向上
目標3：中心市街地の環境整備やイベント開催などによるにぎわいの創出

目標設定の根拠
都市全体の再編方針（都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針） 深川市の中心市街地は、JR函館本線および国道233号、道道深川雨竜線が基幹交通となり古くから交通の要衝として、また北空知圏の中心都市として発展してきた。しかしながら、車社会の進展や道路網の整備が進んだことにより、市街地中心部での購買力を郊外的大型店へ流出させ、商店街の空き店舗増加など、中心市街地の空洞化が進んでいる。さらに急速に進む少子高齢化や人口の減少による「まちなか」のにぎわいの喪失や活気の低迷が懸念されている。 こうしたことから、深川駅を中心とした深川駅周辺地区において、これまで社会教育、市民交流の中心的役割を担ってきた中央公民館の著しい老朽化を踏まえ、これを新たな地域交流の拠点となる施設として整備することで、中心市街地の交流促進とにぎわいの再生を図り、さらにJR深川駅との交通結節点となる複合交通センターを合築し複合施設として整備することで、公共交通の充実・強化による都市生活の利便性を高めるものとする。また、整備に併せて、中心市街地の環境整備などを進めることにより、安心・安全でにぎわいのある市街地空間を創出する。

まちづくりの経緯及び現況
・本市は昭和38年に隣接する当時の深川町、一巳村、納内村、音江村の4町村の合併により深川市として市政施行され、昭和45年に多度志町を合併し北空知地域における産業や文化等の様々な分野において大きな役割を担いながら、農業を基幹産業とする田園都市として発展してきた。 ・深川駅周辺地区は本市の中心市街地となっており、深川市立病院などの官公署や金融機関、さらに商店街や飲食店が集積し、本市における経済の中心的役割を担う地域である。しかし、急速に進展する少子高齢化や人口減少、車社会の定着は市街地中心部の空洞化現象を進展させ、まちなかのにぎわいや活気の低迷が課題となっている。 ・このような状況の中、第6次深川市総合計画（令和3年度策定）において、「深川駅周辺の中心市街地は、その立地条件を活かし、まちなかの活性化や市民生活の向上等に配慮した良好な市街地環境となるよう、都市機能の集積化を促進し、地域交流センターや公共交通拠点施設などを含めた複合施設の整備を視野に検討を進める」としている。 ・さらに、深川市都市計画マスタープラン（令和3年度改定）においても、整備テーマとして、深川市民や周辺都市から人々が集まる、にぎわいのある「まちなか」を創り「交流・にぎわい拠点」とするとしている。

課題
①都市機能の強化による市街地中心部のにぎわいの再生 ・少子高齢化、人口減少の進行により、中心市街地での交流が停滞し、にぎわいの喪失が課題となっており、誰もが安心して訪れ交流できるコミュニティ拠点施設の整備が求められている。 ②公共交通機関の利便性向上 ・急速に進む高齢化の中、まちなかへの移動を担うバス等の公共交通は高齢者等の交通弱者にとっては重要な移動手段であり、利用しやすい交通環境が求められている。 ③快適で魅力ある市街地環境の形成 ・市街地中心部の回遊性を高めるため、まち歩きが楽しめるような魅力ある空間形成が求められている。 ・また、すべての年代の誰もが安心して移動できる歩行空間の確保のため歩行空間のバリアフリー化が求められている。

将来ビジョン（中長期）
①第6次深川市総合計画（2022～2032）（令和3年度策定） ・深川駅周辺の中心市街地にある未利用地などは、その立地条件を生かし、まちなかの活性化や市民生活の向上等に配慮した良好な市街地環境となるよう、都市機能の集積化を促進し、地域交流センターや交通結節点などを含めた複合施設の整備・検討を進める。 ・交通結節機能の強化に向けた公共交通拠点施設の整備・検討を行う。 ・老朽化が著しい中央公民館の建て替えに向けた検討・整備を進める。 ・高齢者や障がい者をはじめ、誰もが安全で快適な歩行空間を確保できるよう、道路の移動円滑化整備ガイドラインに基づいたバリアフリー化歩道の整備を行う。 ②深川市都市計画マスタープラン（2020～2041）（令和3年3月改定） ・『コンパクトシティ・プラス・ネットワーク』を掲げ、にぎわいのある「まちなか」の創出として公共施設の集約化と市民交流機能の整備、深川の顔としての景観と安全に配慮した歩行空間のバリアフリー化、ブロック舗装の整備、など、「まちなか」ならではのメリットを十分いかしたまちづくりの推進。 ③深川市立地適正化計画（2020～2041）（令和3年3月策定） ・中心市街地地区については、公共施設の集約により更なる利便性の向上や、まちなかの拠点となるよう、生涯学習機能を備えた地域交流センターやバスターミナル等交通結節点を含めた複合施設整備の検討を進める。 ④深川市バリアフリー基本構想（2016～2031）（平成28年4月策定） ・JR深川駅周辺を中心に高齢者社会に対応するとともに、障がいを持つ人も健常人も安全で快適な通行を確保するため、歩行者や自転車交通のネットワークの形成やバリアフリー化・無電柱化を進める。

都市構造再編集中支援事業の計画
都市機能配置の考え方 ・深川駅を中心とした区域に都市機能誘導区域を設定し、老朽化の進む公共施設の更新・集約化を進め都市機能の維持・向上を図る。 ・また、交通結節点となる交通拠点施設の整備を行い、公共交通の利便性向上と強化を図ることで中心市街地への誘導を促す。 ・さらに、道路のバリアフリー化や無電柱化、景観ブロック舗装による安全・安心で快適な歩行空間の整備や多目的広場の造成、情報板を設置することで、まちなかの回遊性を向上し、にぎわいの創出を目指す。 都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等 滞在快適性等向上区域の考え方

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
地域交流・交通施設利用者数	人/年	複合施設(地域交流拠点・交通拠点)の利用者数	生涯学習活動およびコミュニティ拠点となる施設を整備することで、交流促進と中心市街地の活性化を図る。	26,640人/年	令和4年度	27,160人/年	令和10年度
公共交通の満足度	点	アンケート調査による公共交通の満足度	JR深川駅に隣接して交通結節点となる拠点施設を整備することで、公共交通の利便性向上を図る。	2.6点	令和2年度	2.8点	令和10年度
中心市街地の満足度	点	アンケート調査による中心市街地の満足度 (中心市街地の利便性・にぎわい)	まちなかでのイベント等の開催支援や、環境整備等の事業を実施し中心市街地の活性化と利便性向上を図る。	2.1点	令和2年度	2.8点	令和10年度

計画区域の整備方針	
【生涯学習活動およびコミュニティ拠点の整備による市街地の交流促進と活性化】 子供から高齢者まで幅広い世代が生涯学習活動や各種会議・研修、イベントなど様々な用途で活用できる機能や空間をもつ施設の整備や既存の文化施設と連携して活用できる屋外多目的広場を整備するなど、交流の促進や市街地の活性化に資する事業を実施する。	方針に合致する主要な事業 【基幹事業】 高次都市施設：(仮称)深川地域交流・交通センター整備事業 地域生活基盤施設：多目的広場整備事業 【提案事業】 地域創造支援事業：キッズスペース整備 地域創造支援事業：シェアキッチン整備
【交通結節点の整備による公共交通の利便性向上】 JR深川駅近郊に公共交通レーンやバスターミナルなど、交通結節点となる施設の整備や将来の公共交通の可能性を検討するための社会実験を実施するなど、公共交通の利便性の向上を図る。	【基幹事業】 高次都市施設：(仮称)深川地域交流・交通センター整備事業 域生活基盤施設：情報板整備 【提案事業】 まちづくり推進事業：AIオンデマンド交通(バス)社会実験
【中心市街地の環境整備やイベント開催などによるにぎわいの創出】 安心・安全で快適なまち歩きを促進するため、情報板の設置やバリアフリー歩道整備、景観に配慮したブロック舗装の設置など、歩行空間の整備を進める。また、人々が回遊、滞留するまちなかでのイベントの開催支援など中心市街地の活性化は図ることで、まちなかの回遊性向上とにぎわいの創出に資する取組みを実施する。	【基幹事業】 道路：市道蓬莱通線、市道仲町通線、市道8丁目線 地域生活基盤施設：情報板整備 高質空間形成施設：景観ブロック舗装整備事業(市道蓬莱通線、市道仲町通線、市道8丁目線) 高質空間形成施設：視覚誘導ブロック整備事業(駅前広場・市道7丁目線) 【提案事業】 地域創造支援事業：まちなか活性化イベント支援事業 事業活用調査：事業効果分析
その他	
【住民との合意形成】 ○深川市複合施設基本計画策定にあたり市民検討委員会を4回開催 ○学生を対象としたワークショップの開催や中央公民館利用者との意見交換会を実施 ○複合施設建設にかかる各種アンケート調査を実施 ○深川市複合施設基本計画策定にかかる市民説明会の開催やパブリックコメントの実施 ○都市計画審議会において基本計画の策定を報告 【交付期間中の計画の管理】 ○交付期間中の計画について、地域住民、行政、商工会議所、商店振興会、各種文化団体等と連携し各種事業を円滑に進めるとともに、事業の実施状況を広報またはホームページ等で発信し情報の共有を図っていく。 【事業終了後の持続的なまちづくりに向けた取組み】 ○事業完了後も地域住民、行政、商工会議所、商店振興会、各種文化団体等が連携し、まちなかのにぎわい創出を図るための施策展開を進める。	

様式(1)-④-1

(金額の単位は百万円)

...A

...B

050

面積

47.8 ha

区域

1条6番～11番の一部、2条～7条の6番～11番

変更無し

